

箕輪町 公民館だより

発行：箕輪町公民館

☎79-2178

* 各学級で公開講座が開かれました *

新年明けて1月・2月は公開講座ラッシュ。どの講座でも一般参加の方の受講があり、大勢で、楽しく、興味深く学ぶことができました。

＜以下、公開講座の一覧＞

- ・ふきはら大学「箕輪町の養蚕業の今」
- ・ふきはら大学院「歌おう！思い出の歌！青春歌謡」
- ・けやき学級「古田人形芝居について」
- ・おやじ学級『『箕輪学かるた』で箕輪町を学ぶ』
- ・なでしこ学級「箕輪町はこうして出来た！」



【熱心に受講する参加者】

大学・大学院・学級 合同閉講式

箕輪町公民館文化講演会が開かれました



【全5学級が一堂に会して閉講式】

令和5年度の公民館大学・学級が1年間の課程を終え、3月14日、合同閉校式を開きました。2年制の「ふきはら大学」を9人、同課程修了者が学ぶ3年制の「ふきはら大学院」を5人が卒業しました。1年制の「なでしこ学級」「おやじ学級」「けやき学級」は全員が課程を修了しました。

唐澤公民館長からは、『源氏物語』に興味を持ったことをきっかけに、日本語を覚え、やがて最も心惹かれた江戸時代の文学を学び日本文学研究者となったロバート キャンベルさんの言葉「何かを学んだら、それを形にして次の人に伝えることが大

事」を引用し「計画した講座が学生の皆さんの積極的な参加によって新たな学びや出会いの場となったことに敬意を表する。大学や学級で学んだことが様々な形で次の人に伝わることを期待したい」と閉講あいさつがありました。

卒業生代表；ルーカス尚美さん（ふきはら大学院3年）から「新しいことを学べる環境があることはありがたく、講師や関係者に感謝の気持ちでいっぱい。これからも好奇心を持って一日一日大切に過ごしていきたい」とあいさつがありました。

<卒業証書・修了証書の授与>

公民館長より各学級の代表者に「卒業証書」と「修了証書」が授与され、その後の学級会で全員にも授与されました。学生時代とは違って、成人後、何かしらの卒業証書を授与されるということは非常に貴重な機会です。その意味を一人一人の卒業生が噛みしめながら、さらには今後の自分の行く末に期待と思いを膨らませながら受け取りました。



【「卒業証書」授与】

<文化講演会>

～「関東大震災と中箕輪村」～

講師；伊那市高遠町歴史博物館長 塚田博之 さん

閉講式に続き開催された文化講演会、一般の聴講者も加わって貴重な学びの場でした。

1923年（大正12年）に起きた関東大震災…上伊那でも強い揺れを感じた記録が富県尋常小学校学校日誌の記述などに見られる。遠く離れた信州でも関東方面に大きな被害が起きたことを知り、各地から義援金や支援物資が送られた記録が残っている。箕輪町でも「震災救助ニ関ス件 中箕輪村」（箕輪中部小学校蔵）の資料がある。情報が乏しい時代でありながら200km以上離れた、この上伊那の地から支援をしたのはなぜか？ この問いの背景に、箕輪町では大正5年に起きた「松島の大火」があるのではないかと。松島地区で約140戸が全焼した大火であったが、その被害に対し近隣の村から支援を受けている。その記憶が人々の脳裏に残っており、他の災害地に対する支援という形で行動に移れたのではないかと。

こうした歴史を辿りながら先人たちの復興への営みを思い出していくことが、今を生きる私たちにとって大切ではないだろうか。そういう意味で、箕輪町の人々にとって「松島の大火」、その後起きた「関東大震災への支援」は、記憶にとどめ語り継いでいくべき事件ではないだろうかとの歴史的事実の現代的意義を説いてくださいました。

この正月に能登半島で起きた震災もあり、近代の身近な歴史から、現代の私たちの生活に大切なことを投げかけてくださる講演会でした。



【中央と箕輪の動きを重ねながら解説】



【熱弁を振るう講師；塚田博之 さん】